

インナーモールの形成

貫通通路としてインナーモールを形成し、快適な内部歩行空間を整備する。また、インナーモールと街路をつなぐような中間領域を設けることで、街の奥行きを演出する。



街の奥行きを作る中間領域 イメージ

表情豊かな低層部の計画

低層部の店舗配置に変化をつけて店舗の表面積を大きくし、視覚的な変化の連続性により、にぎわいを演出する。



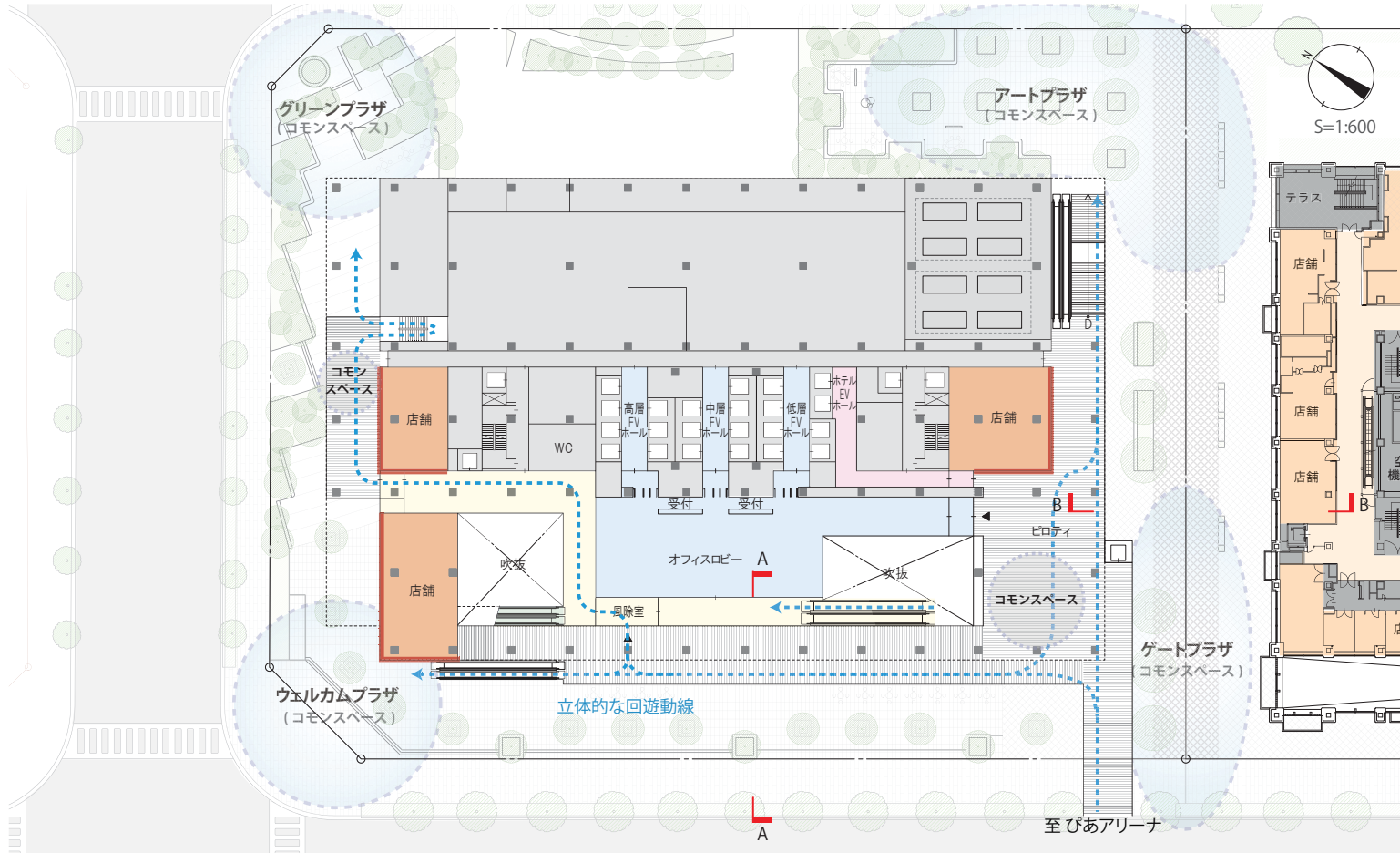
ひだ状の配置による表情豊かな店舗空間 イメージ

「芸術と文化軸」のにぎわい

「芸術と文化軸」に沿って、店舗やアート、ストリートファニチャーを設置し、また舗装や植栽を一体的に整備することで、軸線としての多様なにぎわいを創出する。

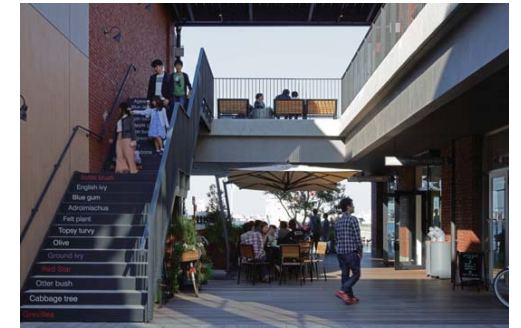


軸線を彩る多様なにぎわい イメージ



2階デッキレベルでのにぎわい創出

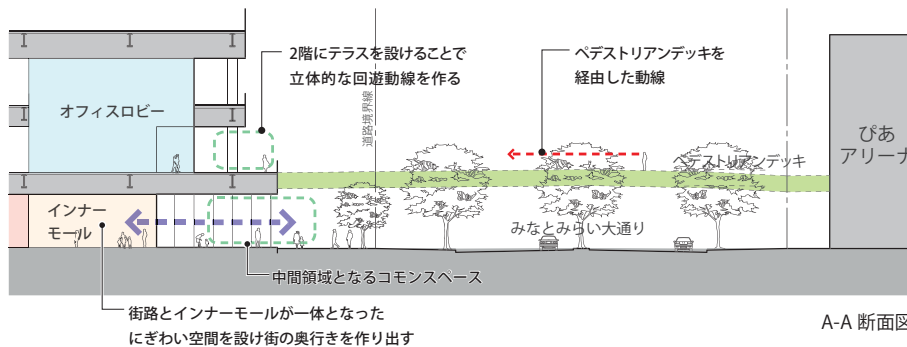
2階レベルに対しても、アクティビティフロアやコモンスペースを計画し、ペDESTリアンデッキからの歩行者に対する回遊動線を設けることで、立体的なにぎわいの創出に寄与する。



デッキレベルでのにぎわいイメージ

みなとみらい大通り沿いの立体的なにぎわい

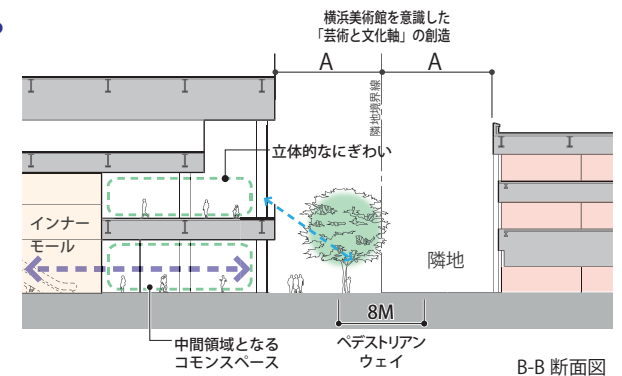
みなとみらい大通り沿いにテラスを設け、回遊動線を整備する。テラス、街路とインナーモールが一体となった立体的なにぎわいが、街の奥行きを創り出すことに寄与している。



A-A 断面図

新しい都市軸をつくる

「芸術と文化軸」に沿って2階テラスも含めて、大小様々な中間領域となるコモンスペースを作り出す。



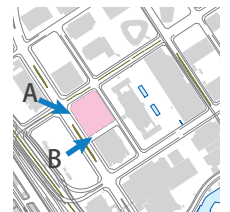
B-B 断面図



A: みなとみらい大通りからウェルカムプラザを臨む



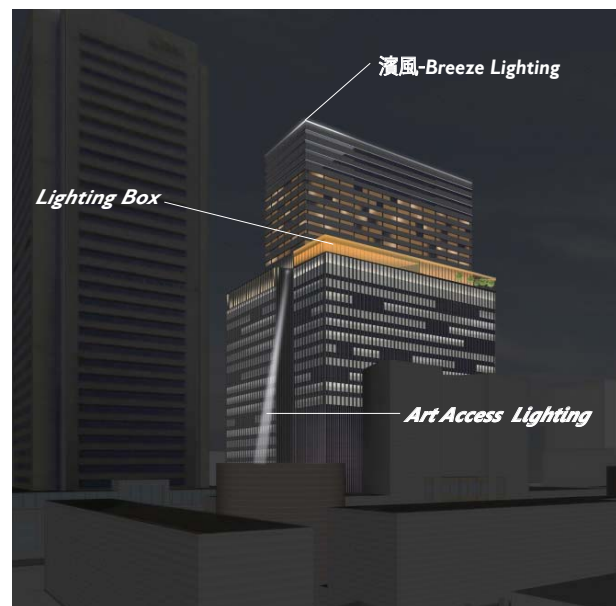
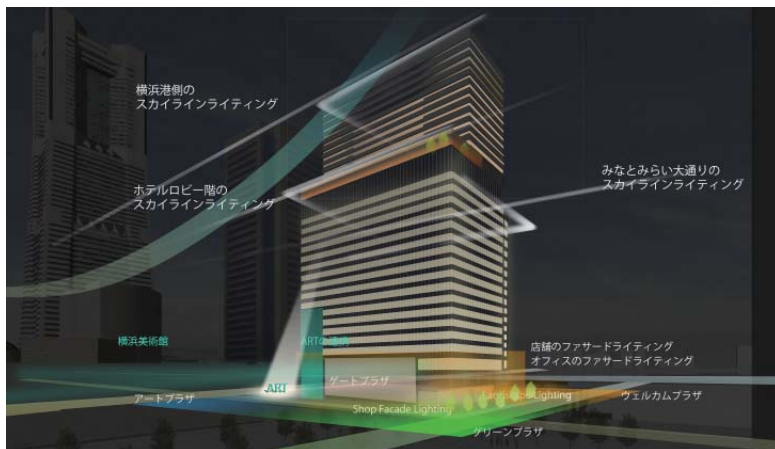
B: 「芸術と文化軸」を見通す



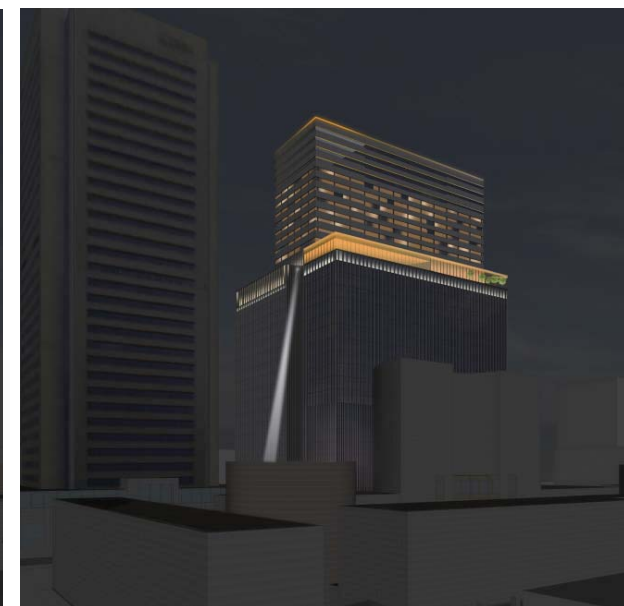
生き生きとした建物の活動を夜間に表出する景観照明 — “Alive Light”

建物の生き生きとしたアクティビティを直截に景観照明として表出させることを意図し、本計画の照明コンセプトを「Alive Light」と名づける。

それを、遠景:「濱風」、中景:「Lighting Box」、近景:「Art Access Lighting」という3つのコンセプトライトに翻訳する。



■ クイーンズスクエア方向より 【平日】



■ クイーンズスクエア方向より 【休日】

Alive Light

濱風-Breeze Lighting

横浜港の「濱風」が海から山へ向かって軽やかに吹き抜ける様を、頂部のグラデーションな光が表現する。また、建物内のアクティビティの総体を色温度として表現し、みなとみらいの人々のふるまいを象徴する。

Lighting Box

煌めくショーケースのように、夕暮れに輝く出すガラスの箱。ホテルロビーの非日常感を一気に盛り立てる。ホテルのアクティビティと共に刻々と変化する様は、さながら街のにぎわいが納められたディスプレイの様。

Art Access Lighting

「芸術と文化軸」と建物を密接につなげる象徴的な光。アートを照らし、人々のにぎわいを惹きつける。近景ではアートとの関係性を、中近景ではにぎわいのライブ感を伝える光として役割を担う。



■ みなとみらい大通りより 【平日】



■ みなとみらい大通りより 【休日】



汽車道から望む